

「もんじゅ」見学会同行記－対話イン愛教大 2011 関連活動－



### 1. 概要

平成 23 年 6 月 25 日、愛知教育大学エネルギー環境教育フォーラムによる「もんじゅ」見学会にシニアネットワーク会員として同行し、参加学生の高速増殖炉に関する学習を援助・協力した。この計画は 5 月 28 日に実施された対話イン愛教大 2011 に引き続き、中部原子力懇談会協催の下に開催され、対話会参加学生のほとんど全員が参加した。同環境教育フォーラムでは別途浜岡原発見学も企画・実施しており、今回の見学と合わせて、参加学生は日本の原子力発電の現在と未来に関する知識に接することが出来たと考えられる。

### 2. 目的

愛教大学生・教員のもんじゅ見学会に同行し、専門家シニアとして質疑応答を含めたアドバイスを行い、参加者が高速増殖炉技術を理解するための助勢を行うこと。

### 3. 実施内容

(1)日時：平成 23 年 6 月 25 日（土）11:00 - 16:00

11時に敦賀駅前「まるさん屋」に集合し、昼食時シニアの紹介を行い、バスで「もんじゅ」に向かった。往路では準備した資料を基に日本と世界の高速増殖炉技術開発の現状をシニアが説明し、帰路では学生とのQ&Aに対応した。

(2)見学先：日本原子力研究開発機構高速原型炉もんじゅ施設（敦賀市白木）（但しもんじゅ原子炉とタービン建屋には先方の都合により入域していない。）

- ・PRセンター
- ・FBRサイクル総合研修施設（ナトリウム取扱研修棟を含む）

(3)見学参加者：愛知教育大学学生 26 名、引率教員 1 名

中部原子力懇談会事業部長 玉越 武

シニア（SNW）金氏 颯、若杉和彦

合計 30 名

(4)見学内容

a. 発電所の紹介（原子力機構職員より）

もんじゅ発電所（高速増殖炉）の概要（ビデオにて）、運転再開の内容スケジュール予定  
ナトリウム漏れ事故での情報隠しとその後の地元への信頼回復のために行った事柄、  
もんじゅサイトでの職員の安全を中心とした教育訓練内容、  
国際協力の実施状況（現状 米国、フランス、ロシアなどとの国際協力）

b. 見学箇所

- ・ナトリウム取扱研修棟；ナトリウムループ等の施設
- ・ナトリウム燃焼消火訓練セル（高温ナトリウムの火災燃焼実験はビデオ映写による観察）
- ・ナトリウム取扱基礎実験室；灯油中に貯蔵されたナトリウム片を取り出し、切断実験

(5) 見学を終えての参加者の主な感想（帰路バス内でのQ&Aとアンケート結果による）

- ・軽水炉と高速増殖炉の違いが良く分かって、有意義な見学だった。出来れば原子炉の中に入って見たかったです。
- ・ナトリウムを実際に切ることが出来、また液体ナトリウムを見ることが出来て良かった。
- ・プルトニウムとウランについて、また中性子について、なんとなく分かっている、またはつきとは分かりません。
- ・もんじゅの部品落下事故についての説明が分かり易かった。
- ・あんな小さなペレット1個で1世帯4ヶ月の電力が賄えることを聞いて驚きました。
- ・中性子によってウラン238がプルトニウムになってどんどん増えて行くことを初めて知った。
- ・自分なりに様々なことを経験、学んできたつもりですが、今後教員となった時に専門家の方々よりご意見ご助言を頂きたいと思います。
- ・前知識がない人のためにプルトニウム（実物）があると良かったかも。
- ・お昼ごはんが美味しくて感動しました。

4. シニア感想

普通の原発見学は一般的だが、学生が高速増殖炉を見学する機会はありません。軽水炉と高速炉の両方を見ることで、日本の原子力発電の現状と未来に接することが出来、大変良い企画であると思う。ただ今回は見学の前日（6月24日）、昨年8月に落下した炉内中継装置の炉心からの引き抜き作業が丁度終了したタイミングと重なり、もんじゅ建屋への入城が許可されなかったのは残念だった。見学後のアンケートに見られるとおり、参加学生は確実に見学による体験を身に付けており、今後の教育者としての活躍を大いに期待する。

参考：見学参加者名簿（敬称略）

1. 愛知教育大学教官 大鹿聖公(准教授)

2. 学生 荒川ゆいな、石田智紀、伊藤裕介、稲吉健介、梅田裕介、正親直也、川瀬貴恵、佐藤亜里沙、清水麻美、鈴木康太、鈴木春野、田島和樹、田中博之、塚田有貴、角田越宏、中道亜希、西川悠子、西沢智、西山亜沙美、樋口徹、藤井啓康、藤原敦子、水谷忠樹、村越生恭、森薫子、森大輝、

3. シニア 金氏 顕、若杉和彦

4. 中部原子力懇談会 玉越武

以上